

新川会通信

特別号

すまいる

発行
社会福祉法人新川会

〒930-0362
上市町稗田字七郎谷1-32
Tel(076)472-1118
Fax(076)472-5391
E-mail yotsubaen@niikawakai.jp
HP http://www.niikawakai.jp/

発行責任者 山岸 親史

明るい笑顔があふれるところ



明るい笑顔が戻りました

統括責任者 山岸 親史

この四月に着任した山岸です。本来ならば、新任のご挨拶というところでしようが、ご案内のとおり、四ツ葉園は、新年度早々の四月十日から新型コロナウイルス感染症のクラスターに見舞されました。そして、二カ月余りが経過して、六月六日にクラスターについては収束を迎えることができました。

この間、施設開設以来の危機的状況に際して、県、上市町、知的障害者福祉協会、保護者様をはじめとする多くの方々から心温まるご支援いただき、本当に助かりました。

この間、法人職員も一丸となつてがんばりました。何人のスタッフが、ひと月以上、自宅に帰れない日々を送りました。自らの感染を乗り越えて支援に当たつた職員もおります。

本来なら、利用者様に寄り添う支援であるべくなのに、長期間に渡り、感染対策的な業務を続けるを得なかつたことに、職員一人一人が忸怩(じくじ)たる思いがあつたことと思います。

何より、利用者の皆様には、長期にわたり療養的な生活に協力していただいたことに感謝申上げます。

これから、ワクチン接種も広まつていくと思われますが、全国的にはまだまだ自粛状態が続きます。でも、私たちは、一時の困難な状況を乗り越えました。今こそ「明るい笑顔があふれる」四ツ葉園を取り戻しましょう。

状況説明

「クラスターを乗り越えて」

四ツ葉園施設長 藤木 和美

内 容	月日・回数
発生日	4/10
クラスター認定日	4/22
PCR 検査数	延べ回数 286回
陽性者数計	22名
収束日	6/6
利用者ワクチン接種	7/22 8/12

めまして感謝申し上げます。

●第一報をうけて初期対応

四月十日夜間に女性スタッフよりPCR検査結果陽性の報告がありました。直ちに、出勤可能な職員を招集し、全利用者の健康状態の再確認を行いました。そして、翌朝利用者が起床し活動開始するまでの夜間帯に、施設内の次亜塩素酸消毒と、男女利用者生活空間の明確なゾーニングを完了しました。さらに、支援者も男女別にして交わらないように手配も行い、この時点で職員室も男女別に設置しました。

タ、県医療チームと日々連携を取りながら対策を勧めてきました。四月二十二日と五月二十日には、関係機関による「四ツ葉園における新型コロナウイルス対策検討会」があり、状況確認、方針決定がおこなわれました。さらには、園内の対策だけでなく、職員の宿泊場所の確保にもご尽力をいただきました。

感染拡大の要因を推測してみると、基本の感染防止策は昨年度の緊急事態宣言時よりもっとつておりましたが、クラスターを経験した今振り返ると、まだまだ不十分であつたとも思います。近距離での介助が必要な方も多く、防護服の着方や脱ぎ方のガウンテクニックの未熟さ、感染症に対する知識の乏しさ、医療専門ではない支援スタッフが療養と支援を両立させていたことの難しさが感染拡大につながつたとも思われます。

昨年度の富山県緊急事態宣言時に、男女分けのゾーニングと支援方法を検討し実際に行い経験済みであつたので比較的スムーズに行えました。

●連絡体制

四月十一日、法人緊急会議を行ない状況の共有を図りました。同日、関係諸機関、四ツ葉園保護者へ電話にて状況報告を行い、ショートステイ利用の方、法人職員の健康状態を確認しました。

保護者の皆さんにはご心配をおかけしているにも関わらず、連絡のたびに職員を気遣つてください大変心強かったです。地域の皆さまからも温かいお言葉を多数いたしました。関係諸機関の皆さまからも、ご指導、ご支援をいただき、約二か月間にわたる対策も収束を迎えることができました。改



●感染状況

女性利用者、スタッフに感染が拡大したことは本当に残念に思いますが、男性利用者、スタッフへの感染が防止できたことは幸いであります。感染拡大の要因を推測してみると、基本の感染防止策は昨年度の緊急事態宣言時よりもっとつておりましたが、クラスターを経験した今振り返ると、まだまだ不十分であつたとも思います。近距離での介助が必要な方も多く、防護服の着方や脱ぎ方のガウンテクニックの未熟さ、感染症に対する知識の乏しさ、医療専門ではない支援スタッフが療養と支援を両立させていたことの難しさが感染拡大につながつたとも思われます。

また、利用者のマスク着用が難しく、四月当初のマスク着用率は一割程度でした。食事場面以外のプレールーム等の共有空間での感染も考えられます。

●対策中の利用者生活状況

最初の感染者が出た以降は、園内で感染が広がっていることを疑いながら健康観察や環境清拭をこまめに行い感染拡大防止に努めま

●関係機関との連携

富山県、上市町、中部厚生セン

した。

集団感染下では、居住区域（居室）での療養生活となり、日常の活動を制限せざるを得ませんでした。歯磨きや入浴など、身体に接触する機会が多い支援についても制限があり、通常よりも回数を減らしました。

また、発症のない男性ユニットにおいても、感染を疑い、感染ゾーンに準じた日課となりました。少しでも利用者の不安が解消さればと、状況説明を繰り返し伝えたところをとても評価していただきました。それがまたスタッフの励みになり頑張り始めたと思いま

す。
医療の専門家ではない支援員が療養と支援を両立することはとても難しいものがあり、その状況下での福祉施設の看護師の役割は多岐にわたりました。医務室としての通常業務の継続に加えての感染症対策となり、二名の看護師は多忙を極めておりました。

感染状況に応じて五月二十三日より徐々に、生活空間や支援内容をもとに戻していきました。

●職員体制

法人全体、全職種の職員が、事態の収束に向け職種を超えての協力体制がとられました。直接支援スタッフの確保は法人内各事業所からの応援職員を要請し、勤務体制を整えましたが、職員の感染や濃厚接触者への認定、地域の状況にも左右され、安定した職員数の確保が難しく、毎日の調整が必要な用

でした。収束までの間は、各事業所間は200mで状況を報告していました。

そのような厳しい状況であり、自らも感染の恐れのあるなかでもスタッフはとても頑張ってくださいました。それがまたスタッフの励みになり頑張り始めたと思いま

す。
出しおり、回収していただきました。ほかにも、リースの寝具や、出入りの業者さんとのやり取りも欠かせない業務のひとつでした。環境清拭に使用するための古タオルや、職員の着替え用服の応援もあり、県医療チームの皆さんからも、スタッフが明るく支援を続けていました。それがまたスタッフの励みになりました。

医療の専門家ではない支援員が療養と支援を両立することはとても難しいものがあり、その状況下での福祉施設の看護師の役割は多岐にわたりました。医務室としての通常業務の継続に加えての感染症対策となり、二名の看護師は多忙を極めておりました。

●物品について

防護用品、ディスポの皿等は数千単位での備蓄がありました。一日の消費量は予測以上でした。

ピーカク時には手袋は一日でほぼ一枚が消費されました。感染状況や、利用者の特性に応じた個別の物品も必要でした。

ディスポの衛生用品、皿はそのままゴミとなります。週に二回のゴミ収集時には、一回で九十枚のゴミ袋が五十袋は出ました。ゴミは汚染ゴミとして決まった手順で



●反省点と課題

事態に備え出来る限りの体制を整えて準備し、感染予防を継続してきましたつもりでしたが、予測を上回る感染力でした。クラスター対策も二ヶ月に及

6/10 県内の障害者支援施設関係者に向けて今回のクラスターについて報告会を実施しました。



び、スタッフは、心身ともに限界以上の働き方となつております。た。対策中には、館内でいろんなジャンルの音楽を流していましたが、その中の一曲「アンパンマンのマーチ」の一節♪そうだ、おそれないでみんなのために愛と勇気だけが友達さ♪が状況に当てはまり感極まるものがありました。そんな中、スタッフはいつも「大丈夫、頑張れる」と応えてくれていました。しかし、その言葉に甘え心身ともに疲弊している状況への気づき、対応が十分でなかつたと反省しています。

身体も心も蝕む怖い病気と実感しましたが、この経験を生かして、福祉施設としての役割と感染防止の両立を、目指していくなくてはならないと思っております。

令和3年7月30日

クラスター感染拡大の中、皆さんに支えられ、嬉しかったこと

四ツ葉園 支援課長 高木 義邦

本当に大変な環境の中、利用者、職員の皆さんよく頑張ってくれたことに感謝しています。安全宣言、報告会、無事に終えたことで園内のクラスターが収束したことを感じています。

私からは、クラスター対策の中、皆さんに支えられ、嬉しかったことと五点について話したいと思います。

一点目は、毎朝、少しでも利用者、職員の皆さんが元気になつてもらえるようにと園内放送をしていました。放送は「おはようございます」の一言から始まります。それに対して廊下から利用者、職員の皆さんから「おはようございます」と必ず元気な挨拶が返ってきました。不自由な生活をしている利用者の方々、また、大変な中、直接支援をしてくださっている女性職員の方々からの元気な挨拶は本当に心が救われました。また、出勤時には利用者さんからは「放送お願いします。待っているよ

と声をかけてくださる方もおられ、微力ながら私も頑張ろうと、元気になつていただこうとしていたことが逆に元気をもらっていたんだなと思っています。



二点目は、罹患された女性職員の方が、退院、療養後に現場へ戻つてきました。重症化もせず、無事に病院や療養施設を出てこられたことだけでも嬉しかつたのですが、「現場にも早く復帰します」と自らも言つてくれたことがあります。不自由な生活をしていると、また、園内が療養継続中で、今後の感染拡大防止のために、何故自分が感染したと思うのか等の質問に対しても的確に答えてくれたり、本当に感謝の言葉しかありません。

三点目は、四月十日～六月六日まで、直接支援をしてくれているスタッフの方々から「おはようございます」と必ず元気な挨拶が返つてきました。不自由な生活をしている利用者の方々、また、大変な中、直接支援をしてくださっている女性職員の方々からの元気な挨拶は本当に心が救われました。また、出勤時には利用者さんからは「放

援だけでも緊張する中、皆さん常に笑顔でいてくれました。私自身、何度も心が折れそうになることがありました。皆さんの笑顔に心が救われました。

四点目は、私自身は女性通りの収束を中心に動いており、なかなか男性通りへ顔を出すことが少ない中、男性職員は前向きに色々なことを考えていてくれました。

五点目は、男性通りに新型コロナ感染症が入ったとしたら、必要なゾーニング、対応を男性職員の皆さんで検討しており、かなり具体的な案を進めていたことです。主任の方々を中心にチームワークで、また、園内が療養継続中で、このチームワークを今後、支援にもつと生かしていく職場になります。最後に皆さん、本当にありがとうございます。



おられましたが、正にその通りと私も思いました。その体制が即と大変でありました。防護服の装備、ゾーニング等も色々なことが目まぐるしく日々変わっています。支援だけでも緊張する中、皆さん常に笑顔でいてくれました。私自身、何度も心が折れそうになることがありました。皆さんの笑顔に心が救われました。それと実感しましたし、このスタッフの中、管理職として働かせていただいていることに本当に感謝しています。

このチームワークを今後、支援にもつと生かしていく職場になります。最後に皆さん、本当にありがとうございます。

病床化した女性ユニットと看護師の役割

四ツ葉園 主任看護師 大橋 正輝

職員のコロナウイルス感染の一報から一週間で二名の感染が判明、さらなる感染者の増加を懸念していた矢先、新たに十五名の感染が判明しました。この事態を踏まえ、かみいち総合病院より医療チームが派遣され、園内診察や感染症対策指導が行われました。

園内看護師の役割として、利用者の行動特性を踏まえた普段の生活の様子を医療チームに伝えること、利用者の体調不良を早期発見し、即座に報告すること、医療チームからの指導内容を視覚化し、わかりやすく支援員に伝えることで利用者の多くは痛みや不調を正確に訴える事が難しく、支援員が普段との違いに気づき、看護師と情報共有することにより、発症や怪我の早期発見につながりました。一方、感染症対策による集団隔離では、利用者それぞれのルルやルーティンがある中で、思い通りの生活を提供できないことが心苦しく感じていました。



毎日のようにゾーニングやガウン着脱や手順、防護物品の変更・改善があり、支援員は自己の感染の恐怖やストレスを感じていました。が、私自身、支援員の心的ケアをおこなう余裕はありませんでした。

この期間、利用者の園内生活は様変わり



りし、下肢筋力低下と考えられる転倒、会話減少や口腔清潔保持が難しい中での誤嚥、座位姿勢で過ごす時間が増えたことによる褥瘡、精神的不安定もありました。病床と化した女性ユニットにおいて、医療的判断が難しい場面も多々ありました。しかし、医療チームに相談できる環境があつたことで支援員、看護師の心の支えとなっていました。

幸いにもこの感染症拡大にて重症化する方はいませんでしたが、

障害者福祉施設における利用者の搬送、入院という点では、改めて難しさを感じる部分がありました。利用者支援は身体的関わりが多く、感染症対策徹底との両立は難しい面もあります。しかし、「持ち込まない・持ち出さない・広げない」という感染対策の基本を守ることにより、健康的な生活を利

用者に提供できるよう今後も努めています。

令和3年7月30日

職員の皆さんに感謝

四ツ葉園保護者会 会長

土肥 峯雄

四ツ葉園に新型コロナウイルス感染症が入ったと知った時は大ショック。あれだけ感染症に気を付けていたのにどうどう来たのかと思いました。同時に利用者さんの様子はどうなのか?何とかその後の発熱者が出ないようにと願っていました。

思い起こせば、三月の来園日の集会で四月十七日に保護者会定期総会を開催する予定でしたが、四月十二日の緊急役員会にて中止を決定。楽しみにしていたゴールデンウィークの長期帰省も中止になりました。早い判断大正解。クラスター発生後の四月中旬からゴールデンウィーク明けの期間、刻々と入る施設長の報告に対し「とにかく頑張って、今が踏ん張りどころ」と激励するのが精一杯でした。

四月二十六日付の保護者さんに送付予定の「ご連絡の文書」は事務所に止めおかれ、五月十日にやっと園から発送されたのです。文書一つとってもこのあり様。これがコロナの怖いところだと思い

ました。同時に利用者さんの様子はどうなのか?何とかその後の発熱者が出ないようにと願っていました。

六月六日のクラスター収束宣言は待ちに待った瞬間で本当にうれしかったです。テレビ放送で、自室から食堂や体育館に歩いて移動する利用者さんの足元が見えました。足取りが軽そうで本当に良かった。感動!このあとワクチン接種がスムーズに行き渡ればと願うばかりです

今回、新型コロナウイルス感染症クラスターが発生して大変な中、業務にあたってくれました職員の方々にインタビューをしました。

Q1 四ツ葉園で新型コロナウイルス感染症クラスターが発生してどう思いましたか?

A 素直に不安な気持ちと身近に感染者がいなかつたので、心配いました。

(四ツ葉園女性支援員)



利用者さん達の健やかな生活を願い、支援の程よろしくお願ひ申し上げます。感染の拡大を最小限に抑えるようご指導頂きました佐藤幸浩かみいち総合病院副院長をして厚く御礼申し上げます。

A 男性通りの感染者がいませんでしたが、同時にこれ以上、感染が拡がらないよう」と強く思いました。

(四ツ葉園男性支援員)



A 日常生活が制限される中、想像よりも多い人数のクラスターで驚きました。園内療養と知り、どうやって支援にあたるのか不安が大きかったです。

(通所支援員)

A 想像よりも多い人数のクラスターで驚きました。園内療養と知り、どうやって支援にあたるのか不安が大きかったです。

(通所支援員)

A 基本の手洗いはやわらかく、廊下から出しへれした食器等のフルコール消毒の徹底を行いました。

(図4) 葉園調理員

A 事務仕事で紙のやり取つをする事も以前は多かったので制限されたのは大変でした。

(図5) 葉園事務員

Q3 利用者さんとの関わりの中で印象に残っている出来事はありますか?

(図6) 葉園事務員



がんばりの言葉が
とても心強かったです！

A 放送の録持たいせじ、新たなクラスターを生まなじよの感染を防ぐため綿めしござります。

(図7) 葉園事務員

Q3 放送録音を迎えて今思ひたいことは、

A 四ツ葉園全体に広がりなく感染がったじか。今後も感染拡大を防ぐための行動を続けたいと思います。

(図8) 葉園調理員

Q2 新型コロナウイルス感染症クラスターを経験して今後生かしたい事は?

A 口々の感染予防を心がけ、人に感染させなじよの行動します。

(図9) 葉園女性支援員



安全宣言後、元の日常に少しずつ戻つて嬉しいです！



利用者のみなさんの笑顔が戻り職員一同、大変うれしく思います。これからも元気よくいろいろなことを楽しんでいきましょう！

A ウイルスを持ち込まない・持たせない・広げなじ事を徹底したいと願っています。

(廻所支援員)